

MaxMind クレジットカード詐欺検出

導入事例

顧客名: CangeIP.com

業界: DNS,ドメイン名登録業者

成果:

- 詐欺による購入を90%以上削減
- 偽陽性発生率を低下し注文のスクリーニングを効率化



背景

ChangeIP.com は米国カリフォルニア州サンディエゴの DNS とドメインネーム登録業者です。会社は 50,000 人以上のユーザにカスタムメイドのダイナミック DNS サービスを無料で提供しています。ChangeIP.com は CCFD を導入する前は毎月 1,000 ドルの損失を出していました。というのは、デジタル商品を直ちに顧客に提供し、購入が詐欺によるものと判明してもサプライヤからその損失を埋め合わせてもらえなかったからです。



解決策

ChangeIP.com の社長の Sam Norris 氏は 2004 年 5 月に MaxMind のクレジットカード詐欺検出(CCFD)サービスを導入しました。CCFD サービスは支払プロセスの最後のステップ、クレジットカードによるチャージを行う前のプロセスとして既存システムと統合しました。リスク評価が 3.5 以上の注文は保留して更なるレビューを行います。この様な単純なロジックによってさえ、システムは、詐欺防止に対して非常に有効でした。

Sam は MaxMind サービスが詳細情報を提供し、且つ彼が処理をコントロールできるようになっているのが気に入りました。Sam は「今や私達は MaxMind サービスが提供する情報を活用して、リスク評価計算に使った幅広い情報に基づいた賢明な意思決定ができる様になっています。」、結果と言います。

成果

マニュアルのチェックと CCFD サービスの統合によって、ChangeIP.com は、詐欺による購入から発生する損失を90%以上削減できました。詐欺をスクリーニングするシステムは注文の属性に応じて偽陽性を作り出し、正当な注文に対しても高いリスク評価を与えることがあります。Sam は、「誰かがクレームを申し立てた場合、その 99 パーセントは、その注文を行った場所が申請した場

所と一致しなかった為でした。例えば、インドを旅行している間に、顧客が何かを注文したならば、その偽陽性は本当の偽陽性ではありません。しかしこの場合システムは正常に機能しています。注文者が課金用の住所の近くにいなかったからです。」偽陽性を減らす為に ChangeIP.com は旅行しているかもしれない顧客のホワイトリストをシステムに組み入れ、CCFD のスクリーニングをバイパスする様にしました。

サムは MaxMind CCFD に満足しています。「CCFD サービスは費用対効果が高く、詐欺予防のための貴重な情報を提供してくれます。弊社の支払ゲートウェイは、似た様な詐欺対策機能を提供していますが、MaxMind に比べれば劣っています。このサービスに対する費用は最初の不正トランザクションの発見で元が取れました。このサービスで弊社は多額のお金を節約できました。」と言っています。

以上